

令和6年度 ジェンダー平等推進啓発ポスターコンクール 入賞作品

最優秀賞

4点

小学生低学年の部



和歌山大学教育学部附属小学
2年 平岡 稟麻 (ひらおかりま)

男子・女子関係なく、個性を持って生きてほしいです。ユーチューブなどでジェンダーについて学びました。未来は、多様性が受け入れられる世界でありますように。

小学生高学年の部



和歌山大学教育学部附属小学校
4年 児玉 花葉 (こだまはな)

性別や人種がちがっても、みんながえがおになったら、明るい社会が作られていくと思います。

中学生の部



田辺市立東陽中学校
1年 松村 桃香 (まつむらももか)

性別にとらわれず、自分がやりたいことを、やりたいようにできる世の中にしていきたいという思いを表現しました。背景のバラの花は、一人ひとりが、自分らしい花を咲かせようという思いを込めています。

高校生の部



和歌山県立和歌山商業高等学校
1年 辻本 由希美 (つじもと ゆきみ)

男女どちらでも自分のなりたい仕事につけて、自分のなりたい自分になって、生きていけたら素敵だなと思い、この作品を作りました。

令和6年度 ジェンダー平等推進啓発ポスターコンクール 入賞作品

優秀賞

11点

小学生低学年の部



和歌山市立楠見東小学校
3年 小池 愛怜 (こいけあいいい)

大きいもじを書くのがむずかしかった。スカートのかがむずかしかった。ふくの色をつくるのがむずかしかった。

小学生高学年の部



和歌山市立松江小学校
5年 杖村 優妃 (つえむらゆうひ)

男も女もみんな平等に。

中学生の部



和歌山県立桐蔭中学校
3年 坂本 瑞姫 (さかもとみずき)

ジェンダー平等と聞いて、制服がジェンダーレス制服になり、多様性が認められた事が一番に頭に浮かんだ。自分で選んで、自分の道を歩く彼・彼女はカッコイイと思い、真っ直ぐ遠くを見つめる姿を描きました



田辺市立高雄中学校
1年 浅山 陽菜乃 (あさやまひなの)

性別は関係なく、自分の色でかかいている人をかいてみました。この作品を見てくださった人にも、自分の色でかかいて、それを広めて、社会の人達みんなが自分の色でかかいてもらえるとうれしいです



那智勝浦町立那智中学校
2年 潮崎 彩愛 (しおさきさな)

男女平等をあらわすために天秤を描きました。後ろの背景を分割しました。



田辺市立高雄中学校
1年 寛座 晴士郎 (かんざせいしろう)

円を一度かいてから、上から小さい丸を綿棒でスタンプのように押ししました。スタンプするときの力加減がとても難しかったです。文字のわくからはみ出ないように、色をぬるときに集中しました。

高校生の部



和歌山市立和歌山高等学校
2年 巴山 華音 (はやまかのん)

男性の人と女性の人と一緒に家事をしている構図にすることで男性、女性どちらも同じことができる、性別で役割は決まらないということを表しています。男性と女性の区別はないという自分のテーマから、『男でしょ？女でしょ？』だからなんでしょう？もうやめましょう。』というキャッチコピーにしました。



和歌山市立和歌山高等学校
2年 屋成 陽斗 (やなりあきと)

大学への進学率が男女で差があったり、「男だから理系」だとか「女だから文系」などの先入観、イメージを取り払って胸を張って進学できたらいいなと思った。



和歌山市立和歌山高等学校
2年 堀尾 来菜 (ほりおらな)

中心が男子と女子にしっかりと分かれていて、そこから崩れていくのは人の考え方の変化をイメージして作りました。真ん中や中心以外の人を紫にしたり文字を白にしたのは、紫や白は性別に囚われない色だったからです。水色側は子育て問題や性別について、ピンク側は女性の仕事問題について表しています。



和歌山市立和歌山高等学校
2年 松本 和也 (まつもとかずや)

ババ抜きでカードを捨てるといった場面を職を選ぶという場面を想像し、女性のほうが仕事という項目で見ると多少不利な面があるということを知ったので、もっといろいろな職が選べるようになればいいと思っ描かせていただきました。



和歌山市立和歌山高等学校
2年 松尾 華運 (まつおかれん)

風船が縛られずに風に流れる様子で自由を表した。カラフルにして色々な色があるから性別関係なく自分の好きな色を選んでいいということを考えてデザインした。